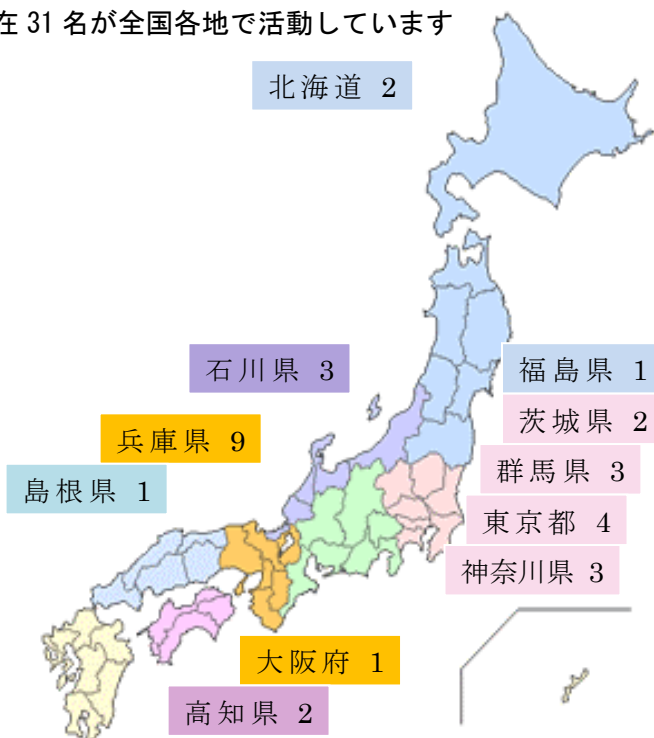


老人看護専門看護師の活動



1. 老人看護CNSが働く場とその活動

現在 31 名が全国各地で活動しています



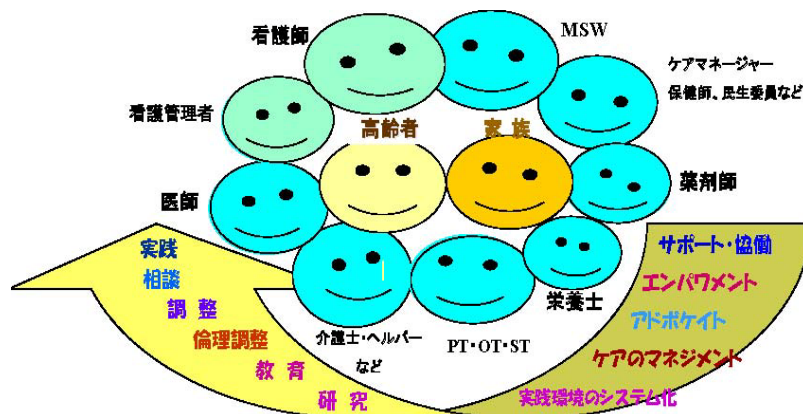
2009年9月の総務庁調査では、女性の 4人に1人 (25.4%)、男性 5人に1人 (19.9%) が 65 歳以上の高齢者となりました。現在、老人看護 CNSは総勢 31名になりましたが、働く場はさまざままで、急性期病院、老人病院、療養病床、在宅部門、教育機関で活動しています。一人ひとりがそれぞれの場で、疾患や問題に焦点を当てた医学モデルの視点だけでなく、高齢者をひとりの生活者としてとらえ、保健医療福祉のあらゆる人々と協働しながら、ケアを提供しています。たとえば、身体とこころの健康維持・増進、せん妄や低栄養、褥瘡、脱水などに対する早期介入、高齢者が穏やかに過ごせるような退院調整、また、いずれ訪れる死が高齢者とその家族にとって、「安らかで美しい最期」「納得でき心残りが少ない最期」となるように、終末期（緩和）ケアの実践に取り組んでいます。こうした活動においては、

CNSの6つの役割を駆使し、要となる活動を展開しつつ、高齢者ケアが行える組織の構築やマネジメント etc も行っています。間もなく、団塊の世代の高齢化に伴い長寿社会はますます進行し、認知症をはじめとする高齢者特有の健康問題や社会問題も顕在化してくると思います。引き続き、時代に応じた高齢者ケアを探求しつつ、医療界はもちろん社会に情報を発信していこうと考えています。

2. 老人看護CNSが考えるこれからの課題

生活者である高齢者に高度実践看護を提供する CNS は、高齢者特有の健康障害の改善や健康維持のための療養上の指示の根拠となる知の蓄積・スキルの習得、医師との包括指示（プロトコール）の活用による連携により、高齢者個々に相応しい適切な医療が提供できるような活動ができればいいと考えています。さらに、老いや病と向き合う高齢者への緩和ケアや人生最後の時を人間らしく、その人らしく過ごすための終末期ケアの確立に向けた活動を行っていくことも重要な課題と考えています。

高齢者の“意思”を尊重し
最期まで“人らしく”過ごせることを支援します



参照：日本老年看護学会 HP (<http://www.rounenkango.com/>)

日本専門看護師協議会 HP (<http://www.jpncns.jp/>)

老人看護 CNS の動き